
駅前にいる人

南波航助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

駅前にいる人

【Nコード】

N3354D

【作者名】

南波航助

【あらすじ】

駅前にいる人どうしてあなたは、そこにいるの。駅前にいる人あなたはいつも、笑っていました。

どうしてだろう。

おじさんは、いつもそこにいる。

何故ですか。こんな寒い日に。どうして立っているのですか。

駅前に、いつも立っている。

そして、僕を見ている。

満面の笑みを浮かべながら。

僕は、とうとう話しかけてみた。

「どうしてあなたはそこにいるんですか？」

何も言わなかった。

「聞いてるんですか？」

何も話してはくれない。

それからというもの、僕は毎日駅前にいる人に話しかけた。

僕は、恋をした。

二十歳になってやっとだった。

その時からだった。

駅前にいる人は、いなくなった。

「どこへ行ったのだろう」

土砂降りの日にさえいたのに、今はいない。

僕は、駅員さんに聞いてみた。

でも、そんな人はいなかったと言う。

見えなくなってから二年後、僕は母と話をした。

「駅前に、人がずっといたんだ」って。

母は言った。

「私も、昔は見たわ。でも、結婚してから見えなくなったの」
同じだった。

母は続けてこんなことを話してくれた。

駅前にいる人

それは

死んでしまった

おじいちゃんだった。

信じられなかった。

どうしておじいちゃんがいたのか。

母は分かっているようだ。

僕にはまだ分からない。

駅前にいる人

どうしてあなたは

そこにいるの。

僕は歳を取った。

六十歳。

そして、死んでしまった。

今では分かる。

どうして駅前におじいちゃんがいたのか。

今では僕が

駅前にいる人。

（後書き）

こんな作品を描くのは初めてで、上手くいかなかったかも知れませんが、読んで下さってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3354d/>

駅前にいる人

2010年10月12日08時54分発行